

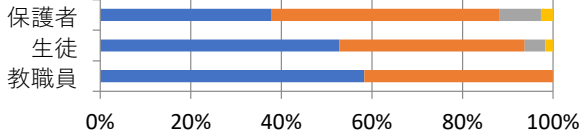
令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

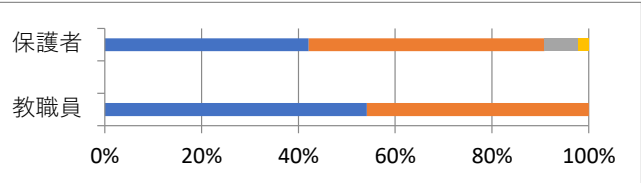
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

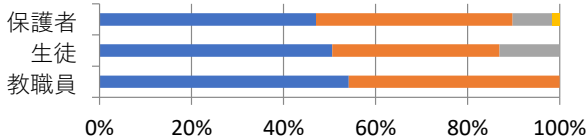


職員の欄の「そう思う」の割合が少ないのが、保護者の「そう思う」の割合の低さに繋がっているように思われる。「心かはやけ月間」をはじめ、心の教育の実践は学校全体として十分に実施している。しかし、児童や保護者の中の「思わない」と回答している人たちがいることを真摯に受け止めてオンライン授業等も含めてさらに一人一人を大切にする指導を行っていかなければならない。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

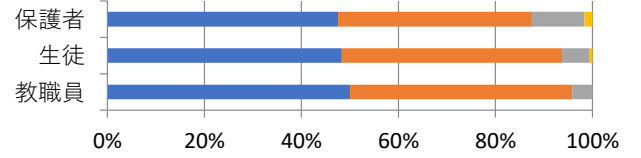
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

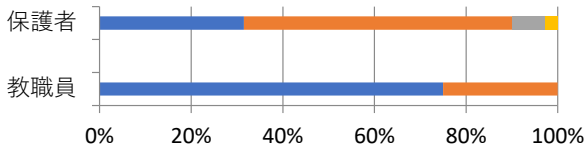


授業力向上については、昨年と比較して大きく変わりはなく、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高い。「そう思わない」という児童の割合が減り、授業改善により児童の困り感も減少している。また、タブレット端末活用については、教職員・保護者・児童とも高い割合となっている。授業内での活用は昨年度と変わらないが、教員の意識が高まったため「どちらかといえばそう思う」の数値が若干減少している。さらに推進していきたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

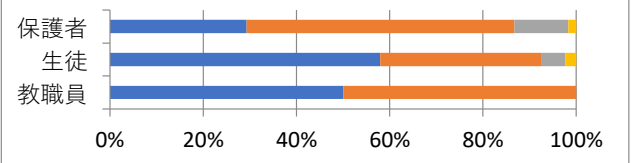
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



「学校の支援体制」「共生社会を担う人材の育成」ともに、教職員と児童の「そう思う」と回答した割合が増えている。しかし、保護者と教職員の「そう思う」と回答した割合の差が広がっている。児童も含めて校内では共有できているが、保護者には伝わっていないという課題が考えられる。学校での実践をさらに保護者に啓発していく必要がある。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>安全と事故防止については、全体的に「そう思う」「どちらと言えばそう思う」の割合が高いが、保護者も生徒も教職員も、1割以下が「取り組んでいない」と思っている。さらに安全教育、事故防止に努めたい。また、家庭や地域との連携協力については、保護者と教職員の「そう思う」の割合は同じであるが、「そう思わない」と思う保護者が2割ほどいる。さらに積極的に家庭、地域との連携を進めていく必要がある。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

9 学校独自1	10 学校独自2
子どもは、早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身についていると思いますか。	子どもは、読書や暗唱に意欲的に取り組んでいると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>早寝、早起き、朝ごはんの習慣について、保護者、生徒は「できた」と感じている割合が多く、教職員は「できた」と感じる割合が少ない。特に身につけていない家庭の児童を注視していく必要がある。また、読書や暗唱への取組については、教職員は「できた、おおむねできた」と感じている割合が9割だったが、保護者、児童は同様に感じる割合が7割と少ない。こちらも意欲的ではない児童に個別に対応していく必要がある。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

11 学校独自3
子どもは、三つの宝（うつくしくまわりを・えがおであいさつ・きちんとくつならべ）が、できていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>児童と教職員については、「できている」と答えている割合が9割を超えている。保護者については「できている」と答えている割合が8割に満たない。また、半数の生徒は「よくできている」と答えているところから、主体的に取り組んでいる児童が多いと思われる。今後、さらに児童が頑張っている姿を地域や家庭にも積極的に伝えて啓発していくことが必要である。</p>

来年度の具体的な取組について

- 学校、学級での具体的な取組を学校だより、学級通信や学校ホームページなどで、保護者に向けて分かりやすくさらにこまめに発信していく。
- 「確かな学力向上」を目指し、本年度は、学習の振り返り指導に力を入れて授業を行った。来年度も継続し、更なる児童の学力向上に努めたい。
- 「学校の支援体制」「共生社会を担う人材の育成」については、学校ホームページで児童らが交流している様子や、職員が特別支援教育について研修している様子を知らせたり、年に数回、保護者向けに特別支援教育についての啓発や相談についての通信を発行したりしていきたい。
- 「安全と事故防止」については、引き続き安全教育に取り組んでいく必要がある。「家庭や地域との連携協力」については、学校での教育活動を学校ホームページなどで発信していることをより周知していく必要がある。
- 「早寝、早起き、朝ごはん」については、具体的な時間を示していく必要がある。
- 本校の「三つの宝」の推進については、ボランティア活動の時期や時間帯を再検討するとともに、靴並べ、トイレのスリッパ並べなど、みんなが気持ちよく使うことができるようにするなど相手意識を高めて取り組んでいきたいと考えている。